

## 地球温暖化の影響の水文・水理学的手法に関する国際ワークショップ

ー京都大学防災研究所と国際水工学会での取り組みー

2010年3月16日(火) 10:00-18:00

宇治おうばくプラザ きはだホール

(ワークショップ参加費 無料)

要旨：地球温暖化や気候変動が社会問題であることは明らかであるが、気候変動の地域や流域への影響度評価は明確ではない。現在の影響評価は、各項目単独での解析であり、それらの相関や連携・連動までは考慮されていない。しかし、実現象では熱、水を媒体として、土壌、植生、生態系への影響はもちろん、斜面、氷河、海洋、農業、林業、まで多岐に渡っているのが現状である。

京都大学防災研究所の温暖化解析グループでは、水文学や水理学の専門家を中心にそうした連動を考慮した評価を行っている。また、国際水工学会の気候変動作業グループでも世界の著名な研究者を集めて、研究のレビューと水理学的評価を行っている。前者は水を媒体とした詳細かつ総合的な解析であり、後者は世界的に問題となる温暖化現象の分析といえる。そこで、両者より共通する研究内容の4名を選出し発表を通じて、方法論・成果の相違とそれぞれの問題点の抽出を行うことは、日本での研究成果の普遍性や特殊性の確認と世界標準への展開を図ることができる。さらに共通ではない現象（多国間水利用問題、氷河の崩壊、世界経済との関連）などの問題認識と研究拡大を奨励することも可能である。最後に行われるパネルディスカッションにより、世界の研究者に対して日本で行っている研究方針の正当性と可能性を認識させ、国際学会での日本の研究レベルの再確認を喚起できる。なお、こうした公開での議論を国内の研究者、実務者に直接的に理解させ、日本の研究内容の把握と海外活動での利用に役立てることができる。

2010年3月16日(火)

京都大学宇治キャンパス

宇治おうばくプラザ きはだホール (控室：セミナー室1)

## Program

Opening 10:00

Morning Session (Chair: Dr. Suzuki)

Presentation 1, Runoff process (10:10-11:10)

Dr. R. Ranzi, Italy and Dr. Y. Sato, Japan,

Presentation 2, Fluvial mechanism (11:10-12:10)

Dr. P.L. Patel, India and Dr. Y. Takebayashi, Japan

Lunch

Afternoon Session (Chair: Dr. Takemon)

Presentation 3, Environment (13:30-14:30)

Dr. S-I. Lee, Korea and Dr. T. Sumi, Japan

Presentation 4, Inland flood (14:30-15:30)

Dr. A. Paquier, France and Dr. K. Kawaike, Japan

Presentation 5, Coastal disasters (15:30-16:30)

Dr. S. De Costa, New Zealand and Dr. N. Mori, Japan

Coffee break

Panel discussion 16:45-18:00 (Chair: Dr. T. Sumi)

Presentations are summarized by Dr. Hori.

Discussion on future climate issues among panelists and audience led by Dr. Sumi

Closing 18:00

検討会 18:30-20:30

宇治おうばくプラザ内 レストランきはだ

参加費 3,000円 (申込切 3/5 (金))

---

申込方法：ワークショップおよび検討会は当日参加も歓迎いたしますが、準備の都合上  
できるだけ3月5日(金)までに、

水資源環境研究センター ワークショップ 2010 事務局

E-mail : [workshop2010@wrcs.dpri.kyoto-u.ac.jp](mailto:workshop2010@wrcs.dpri.kyoto-u.ac.jp)

まで、お名前/ご所属/お電話番号/E-mail アドレス を明記の上、ご参加登録下さいますようお願い申し上げます。多数のご参加お待ちしております。